

自主調査研究報告 [継続報告]

海洋深層水の多目的利用方策に関する調査研究 (1B-2-1)	大分類	継1B
	中分類	継1B-2

1. 目的

北海道における特色ある港湾機能を活用して取水される海洋深層水は、羅臼町、岩内町、八雲町(熊石地区)の3地域で供給されており、水産利用以外にも食料品や化粧品など様々な分野で活用されている。

しかし、北海道は後発地域である等の理由により、関連商品の販売の伸び悩みが続いており、深層水の利用量も頭打ちとなるなど、実用化、販売面で多くの課題を抱えている。

本研究では、こうした課題を克服するために、単独では効果が限定的なPR活動の推進、継続的な製品開発、販売促進の取組強化等の検討を行い、港湾漁港地域の活性化に資することを目的とする。

2. 実施内容

①認知度向上に向けた取組

- ・北海道海洋深層水フェアの実施とアンケートの実施
- ・北海道海洋深層水取水地連絡会を開催

②取水地連携による共同研究への取組

- ・深層水の利用促進のための研究提案

③北海道利用協議会の促進に向けた取組

- ・海洋深層水利用学会全国大会での利用技術の情報収集

3. 主要な結論

①北海道海洋深層水フェアの実施

深層水取水地3町合同で「北海道海洋深層水フェア」を札幌市地下歩道空間で開催した。フェアも5回目になるため、深層水関係製品を求めて数多くのリピーターのお客様が来訪していた。札幌における「海洋深層水」の健康・美容のイメージがある程度定着してきていることが伺えた。



②北海道海洋深層水取水地連絡会

取水地連絡会では、羅臼漁港の取水量の低下が報告され、深海域における取水管のメンテナンスの問題が顕在化しており、今後維持管理技術の技術開発が望まれる。

③取水地連携による共同研究

水産分野における共同研究として、岩内町漁業者への鮮度保持効果のヒアリングを実施した結果、低温性に関する効果を実感しているが、価格へ反映が鈍いことが問題化しており、海洋深層水の有効性の具体的な評価による付加価値の向上が望まれている。

農業分野における共同研究として、畑作(防虫・収量)と酪農(防虫・発酵効果)に関する共同研究案を作成し提案を行ったが、各自治体の情勢(実験フィールドおよび試験費用などの負担)により保留となった。

④海洋深層水利用学会全国大会

久米島での海洋深層水による温度差発電が現地実証段階に入ったことが報告され、今後の利用促進に期待が寄せられている。

4. 今後の対応

平成21年度から始まった「北海道海洋深層水フェア」も5回を迎え、当初目的とした消費者への認知度向上は、リピーターに見られるように、ある程度達成したものと想定される。

今後は、海洋深層水の多目的な利用による深層水の利用・販路を拡大するための研究を行うことが必要である。